

空港争 成田反対

農地裁判が重要局面へ 旧公団職員の証人採用巡り

4月25日、千葉地裁で耕作権裁判が開かれた。耕作権裁判は、市東さんの耕作地を「不法耕作地」として、成田空港会社（NAA）が明渡しを求めている裁判。もちろん市東家が百年にわたって耕作を続けてきた農地であり、不法耕作地などではない。「不法耕作」の根拠とする「同意書」「境界確認書」の偽造が明白となる中、NAAは証拠隠しに終始。千葉地裁・東京高裁の文書提出命令決定にも「関係文書・交渉記録はない」と、その提出を拒否してきた。そしていま、旧地主との交渉に当たってきた旧公団職員の証人採用をめぐる攻防が続いている。不法耕作地であるという根拠となる証拠を出す

ささいな証人も出さないで裁判自体が成立しない。NAAは訴えを取り下げるしかない、という問題である。NAAは「交渉記録は残っていない」とか「交渉担当の職員は亡くなっているのでは」といって逃げようとしているが、今回の裁判で、当時の公団用地部には20人程度の職員がいたことが判明。弁護団は言い逃れを絶対に許さないと、敵性証人の採用を、語気を強めて千葉地裁、NAAに迫った。次回裁判は8月22日（月）。千葉地裁がこの問題をどう判断するのか注目である。

の裁判でも大法廷にも関わらず、一般傍聴席は約30人に制限、コロナ禍での規制が解除されたというのに、裁判は別。「裁判公開の原則」なのに嘆かわしい状況である。さらに今国会ではコロナ禍を奇貨として民事裁判の「リモート審理導入」が進められようとしているという。

新やぐら裁判 控訴審 結審 9月2日判決

新やぐら裁判の控訴審第3回口頭弁論が5月9日、東京高裁で開かれた。昨年10月の第1回口頭弁論で、反対同盟・弁護団が控訴趣旨を論述、3月の第2回では弁護側証人3人が証言、そして今回の最終弁論。

この裁判は、市東さんの天神峰農地に建つ監視やぐら、看板の撤去を求めて、NAAが起した3者だけの密室協議を指定した。裁判・口頭弁論の場では口を閉ざし、進行協議で物事を事実上決定していくようなあり方を絶対許してはならない。そうでなくても今回の

密室の進行協議

最終弁論では、反対同盟の萩原富夫さんと弁護団全員から2時間にわたって、市東さんの耕作地のこと、やぐら・看板と耕作権との一体性、違法な買収、成田空港拡張計画の破綻性など、多角的視点から論述が行われ、一審判決の破棄を求めた。その後裁判長は判決日を9月2日と期日指定。NAAは仮執行付きの判決を求めている。空港にとって、市東さんの農地取得は何ら必要ない。NAAがなすべきはコロナ禍で空港破綻が迫っている現実を直視することだ。（野里豊）



東京高裁前をデモ (5月9日)

法な取得に関わった旧公団職員の証人採用・証言であるが、一審に続き高裁でもこれを拒否し、審理を打ち切った。

「狭山再審を求める市民の会・こうべ」による、神戸駅前、写真左。市民の会・こうべは12年10月10日、延べ40人余が集まりに結成され、毎年5月23日に不当に別件逮捕された。その「5月」にこだわる行動だ。逮捕された当時、石川さんは24歳、今年83歳になる。無実を訴え59年。狭山再審を求める運動を大きく広げ、9月に予定される三者協議（狭山弁護団、東京高裁、東京高検）、現場検証、証人・鑑定人尋問につなげていく。

狭山事件 見えない手錠外すため 再審求め、10回目の座り込み

狭山事件は、埼玉県狭山市で1963年5月1日に女子高校生が誘拐・殺害され、被差別部落の青年、石川一雄さんが5月23日に不当に別件逮捕された。その「5月」にこだわる行動だ。逮捕された当時、石川さんは24歳、今年83歳になる。無実を訴え59年。狭山再審を求める運動を大きく広げ、9月に予定される三者協議（狭山弁護団、東京高裁、東京高検）、現場検証、証人・鑑定人尋問につなげていく。



に座り込み行動に取り組み。「差別裁判うちくだこう」を歌い、座り込みを開始した。

狭山事件は、埼玉県狭山市で1963年5月1日に女子高校生が誘拐・殺害され、被差別部落の青年、石川一雄さんが5月23日に不当に別件逮捕された。その「5月」にこだわる行動だ。逮捕された当時、石川さんは24歳、今年83歳になる。無実を訴え59年。狭山再審を求める運動を大きく広げ、9月に予定される三者協議（狭山弁護団、東京高裁、東京高検）、現場検証、証人・鑑定人尋問につなげていく。

今回の「狭山（差別）事件」紙芝居を上演した。真犯人を取り逃がした警察庁長官が国会で責任追及され、捜査に行き詰まった警察は付近の被差別部落に見込み捜査を集めた。石川さんは部落差別のもとで学校に行けなかった。学習でき、文字上。反差別の運動を強めたい。元教師は「差別問題に教師の立場から接した。石川さんは部落差別のもとで学校に行けなかった。学習でき、文字を得ていたら。教育の視点が大切」。地域の労働組合からは、差別と向き合う重要性が。日本キリスト教団の教会の方は「差別は人間の心と内面、社会的な面、さらに狭山は政治的な面も強い。1日も早く再審、無罪を」など発言があった。

用意したチラシをほとんど配り、再審を求める署名は93筆を超えた。新入会員2人の申し込みがあった。石川一雄さんが「見えない手錠」をはずすために。（庄）

民衆の安全保障こそ 5月3日 ヒロシマ憲法集会

5月3日、「2022 平和といのちと人権を！ ヒロシマ憲法集会」が広島弁護士会館（広島市北区）で開かれた。講演は佐々木寛さん（市民連合新潟共同代表・新潟国際情報大教授）による「憲法を活かす 私たちの選択」市民がつくる新しい社会。（福山、三次、呉、尾道、三原など6カ所をオンラインで結んだ）

佐々木さんは、新潟県知事選や国政選挙など、新潟の野党共闘の実現に「市民連合」が果たした役割、民主主義の下部構造をつくる「脱原発型社会」、沖縄の米軍基地問題と新潟の原発問題を「国家安全保障」につなぐ、国家安全保障に「対置する」民衆の安全保障「障」という視点を話し、草の根運動の大切さを訴えた。

午後、「憲法を活かすヒロシマ女たちの会」の女性を中心に原爆ドーム前の街頭行動（写真上）。シール投票やチラシ配布で、平和公園を訪れた人たちが、市民に「自民、公明、維新、国民が狙う改憲、壊憲は戦争への道」とアピール。続いて「マイライフ マイ憲法」が広島弁護士会館で開催（広島弁護士会館、主催・22年広島憲法集会実行委、後援・広島高校と核は共存できない！。江田 宏）



(寄稿) 日米安保・沖縄・台湾 伊東武是さんに聞く① 台湾有事は日本の有事か

沖縄は「施政権返還、本土復帰50年」を迎えた。今なお在日米軍基地面積の70%以上が沖縄に集中し、巨大な新基地が建設されようとしている。5月、玉城知事は、72年の屋良建議書「基地なき島」を再び盛り込んだ建議書を政府と国会に提出した。「安保・基地は沖縄の問題」なのか。

伊東武是さん(元裁判官)が市民運動の学習会で話した「琉球弧における基地建設、新安保法の集団的自衛権行使の危険性」などを寄稿してもらった。(ブログ「隠居老人の日中不戦祈願」参照/リード、小見出しは本紙)

みなさんは、台湾有事 「台湾有事は日本の有りか」という言葉が聞かれたことかと思いませんか。中たことがあるのではないかと台湾との間で武力が衝突し軍事的紛争がはじまる事態を指している。その、この衝突は中国が武力で台湾の独立を阻止しようとする意図から生まれるとするのが一般的です。



台湾有事を想定し空母化が進められている護衛艦いづも

安倍元首相は、昨年12月に台湾に向けオンラインで講演し「尖閣諸島や与那国島は、台湾から離れていない。台湾への武力侵攻は日本に対する重大な危険を引き起こす。台湾有事は日本の有事であり、日米同盟の有事である。この点の認識を中国の習近平主席は断じて見誤るべきではない」と勇ましい演説をしたそうです。

沖繩の南西諸島が台湾と地理的に接しているから有事になるかのようです。これは分けのわからない話です。地理的に近い位置にあるからという、それだけの理由で中

宮古島、石垣島など琉球弧の島々にミサイル発射の重きを置いた自衛隊の基地が目白押しに新設され、増強されてきました。これら自衛隊の新基地は、台湾有事に連動する日本有事に対応しようとするものであることは間違いないと思えます。

ただ、日本が台湾を支援しようとして中国攻撃の準備をしているというのなら、たしかに中国はそれを阻止しようとして、たとえば自衛隊基地のある南西諸島に先制攻撃してくることはあり得ます。

そうです。台湾有事が日本の有事というのは、台湾に起こった場合に、日本が台湾を支援して軍事行動を起こすという姿勢を示した場合に起こる事態なのです。このことを私たちは十分に自覚しているのでしょうか。安倍さんが尖閣や与那国島が台湾に近いと地勢的な状況だけをのべて、日本側の姿勢に触れていないのは、何かをこまかそうとしているのです。

比喩的に言えば、日本有事は天災ではなく人災なのです。沖繩には既存の米軍基地に加え、ここ2、3年前から奄美大島、馬毛島、

方針、国是が大前提にある。特殊な自衛のためを除いてすべての戦争を放棄したその国は、当然ながら他国どうしの戦争の一方に味方して武力行使の形で関与すること、すなわち集団的自衛権を原則として禁じていると考えられます。

勇ましい安倍演説

安倍元首相は、昨年12月に台湾に向けオンラインで講演し「尖閣諸島や与那国島は、台湾から離れていない。台湾への武力侵攻は日本に対する重大な危険を引き起こす。台湾有事は日本の有事であり、日米同盟の有事である。この点の認識を中国の習近平主席は断じて見誤るべきではない」と勇ましい演説をしたそうです。

ただ、日本が台湾を支援しようとして中国攻撃の準備をしているというのなら、たしかに中国はそれを阻止しようとして、たとえば自衛隊基地のある南西諸島に先制攻撃してくることはあり得ます。

そうです。台湾有事が日本の有事というのは、台湾に起こった場合に、日本が台湾を支援して軍事行動を起こすという姿勢を示した場合に起こる事態なのです。このことを私たちは十分に自覚しているのでしょうか。安倍さんが尖閣や与那国島が台湾に近いと地勢的な状況だけをのべて、日本側の姿勢に触れていないのは、何かをこまかそうとしているのです。

比喩的に言えば、日本有事は天災ではなく人災なのです。沖繩には既存の米軍基地に加え、ここ2、3年前から奄美大島、馬毛島、

方針、国是が大前提にある。特殊な自衛のためを除いてすべての戦争を放棄したその国は、当然ながら他国どうしの戦争の一方に味方して武力行使の形で関与すること、すなわち集団的自衛権を原則として禁じていると考えられます。

「台湾有事は日本有事」と呼ばれる状況は、何を隠そう、私たちが油断して忘れ去られようとしていた。台湾有事は日本有事とすれば、私たちもこの法制のことを忘れかけています。

集団的自衛権の行使から戦争へ

まず私たちは、日本とこの国が戦争と平和の問題について、そもそもいかなる姿勢にあるのかを改めて確認する必要があります。憲法9条です。戦争をしないという国家

7年前、大きな国民的規模となった新安保法制反対運動がありました。基ついで自衛隊が自衛隊戦争開始となろうとしている、そういう事態なの

5月10日、韓国大統領に就任した尹錫悦氏。新政権の行方について、在日韓国研究所代表の金光男さんが分析した。(6日、大阪市内で講演/文責・本紙編集委員会)

この新政権の行く末は前途多難である。尹氏の当選直後の支持率は52.7%だった。同時期の支持率は李明博氏が79.3%、朴槿恵氏が64.4%、そして前大統領の文在寅氏が74.8%だった。尹氏の数字は格段に低いと言わざるを得ない。

尹氏を支持できない理由には、国防省の移転

AR、戦争法反対」というものでした。残念ながら新安保法は成立してしまいました。しかし、この7年間、この法律が適用される危険な事態は起きてきませんでした。私たちもこの法制のことを忘れかけています。

韓国 尹新政権の行方 低い支持率前途多難

大統領が警備上の理由からあきらめた案件で、最初から実現不可能な公約だった。そこで出てきたのが、ソウル籠山にある国防省庁舎への移転案。それには、国防省の移転

費用が必要になる。官邸移転費用が膨らんでいることと国民が怒っている。韓国の国会議席数300のうち172議席を野党の「共に民主党」が占めた。これは、文在寅前(以下、民主党)が占めた。

慌てた尹氏は文在寅政権最後の国務総理、金富謙に「留任してくれ」と言い出した。政権発足前からドタバタ劇を演じている。

尹氏は、5月6日、政策と予算を発表した。労働時間(週52時間)の柔軟化と重大災害処罰法の見直し、脱原発政策の転

対北朝鮮政策では、北朝鮮の完全かつ検証可能で不可逆的な非核化」に

板門店宣言や朝米シンガポール共同声明で合意されたのは「朝鮮半島の非核化」なのだ。ウクライナ事態、北朝鮮の核、ICBMモラトリアム破棄と朝鮮半島と東アジアの緊張が激化している。武力で平和を築くことはできない。外交と対話で解決しなければならぬ。

イベント紹介

5月29日(日) 原発のない明日を 老朽原発このまま廃炉! 大集会 in おおさか

午後1時 集会開始 集会後デモ 2時半出発

6月19日(日) 軍拡・改憲を許すな! 6・19講演集会

午後1時半開場 2時開会 集会後デモ 4時15分出発

PLP会館5階大会議室(大阪市北区) 講演:高作正博さん(関西大学法学部教授)

「ウクライナ侵攻と日本の軍拡・改憲」 主催:軍拡・改憲を許すな! 6・19講演集会

維新問題と左翼の課題 (第4回) 請戸耕市

「維新支持者はタワマン族」?

前回、「維新を支持しているのは誰なのか?」と問題を設定し、その中で、「左翼運動、労働組合運動が、自分たち(サイレント・マジョリティ)のことを『異物』のように見ていることにたいする不信」という問題を指摘した。これについて考えたい。

左翼の冷笑的態度

というのも、前線で奮闘する活動家の中に次のような見解があるからだ。曰く、「維新支持者は貧困層を憎悪するタワマン族(大学教授)」「維新支持者の頭の中は『お花畑』(自治体議員)」。発言者個人を批判したのではない。こういう会話が左翼の間で日常化しており、そこに、むしろ、私たち左翼の直面する問題が突き出されていると感ずるからだ。

問題点を列挙しよう。

①「維新支持者は『タワマン族』『お花畑』という虚構の解釈を持ち出して自己納得しようとしている。しかし、それは『仮想敵』を攻撃する維新のロジックの裏返しではない。

②「お花畑」とは、「維新支持者は、左翼の訴えに耳を貸さず、自分の首を絞めるような政策を支持する自業自得の人間」という意味だ。そういう見下しと突き放しが左翼の側にある。しかし、「左翼の訴えに耳を貸さない」のは、果たして維新支持者の側の問題なのだろうか。左翼の側に問題はないのだろうか。自分の主張は正しく、それに耳を貸さない者は「自業自得」とするのは左翼の傲慢と独善だ。

③「維新支持者を『タワマン族』『お花畑』と規定することで、ここから一体どういう方針がでてくるかだ。「階級的」に「矯正」するか。それとも「階級敵」として「粉碎」するか。危険な態度が生じかねない。

「経済の縮小」と「グローバル資本による利益の略奪」であり、「残りカスを取り合う経済政策」なのだ。この原因・構造・からくりを説明し、対抗ビジョンを提示していく必要があるのだ。

しかし、ここで私たち左翼自身がそもそも「経済全体をどうする」という立場で考えているのか、だから「人びとがなぜ維新を支持するのか?」もつかめない。対抗ビジョンも示せない。人びとに伝わるのは、現状維持と冷笑的態度だけ。それが、人びとをポピュリズムの側に押しやる一

バイデン米大統領は、5月9日、武器貸与法(レンドリース法)に署名した。これによって米国はウクライナに対する武器貸与の手続きが簡略化される。ただ、米国はすでにウクライナに38億ドル分の大量の兵器を提供している。したがって同法によって軍事援助が劇的に変化することはない。だが、米国が戦争当事者となったことはまちがいない。

この問題は、ナチスが台頭しはじめた当初から、さらに戦後は責任問題として、大きな論争になってきた。そして、「労働者階級はナチスを支持していない。支持しているのは中間層だ」という見解が長らく支配的だった。しかしこの見解は、単に事実誤認に留まらない問題を生む。

第一次大戦後のドイツでは、敗戦と賠償問題、ヴェルサイユ体制とワイマール体制、その下では敗北した。敗因は、テロソ連などの連合国への軍事援助を行うために1941年3月、米連邦議会でも可決されたもの。当時中立国だった米国では、戦争当事国に武器を供給することは戦



「グローバリ化」であり、だから、問題の中心は、

「グローバリ化」であり、だから、問題の中心は、

「ナチス支持は中間層」という見解は、労働者の不満・不安がナチスを押し上げていった事実、そして、マルクス主義の主張が労働者を獲得できなかった事実、マルクス主義の敗北とその欠陥という問題を見据えずに糊塗する欺瞞ではない。



【参考文献】ワイマール共和国の活動と労働者の心理を研究したナチス労働者細胞の後期と労働者の

100年前の構図が再帰している。問われているのは私たち左翼の側である。(なお、ポピュリズムとファシズムは単純に等置できない。また、現時点で、維新をファシズム規定するのは早計である。)

前に、英米の政府筋やメディアは、「プーチンが戦争宣言や総動員令を発するのでは」と騒ぎ立てていたが、結局、何もなかった。一方でバイデンは同日、これ見よがしに武器貸与法に署名して見せたのである。

3月26日、バイデンはワルシャワで、「プーチン氏は権力の座にとどまってはならない」と発言して物議を醸した。これは、「ウクライナの戦争を利用してプーチン政権を打倒し、親米政権に取ってかえる」ということだ。これではプーチンのウクラ

OPINION

米が武器貸与法を復活 軍事支援は誰のために

バイデンのねらいは、「第二次世界大戦の画期をなした法律を81年ぶりに復活させた」というメッセージを発することだったのだろう。5月9日、日本日の対独戦勝記念日である。英米の政府筋やメディアは、「プーチンが戦争宣言や総動員令を発するのでは」と騒ぎ立てていたが、結局、何もなかった。一方でバイデンは同日、これ見よがしに武器貸与法に署名して見せたのである。

(深田京二)

50年 77年
「復帰」戦 沖縄戦

この人に聞く

写真家 大城弘明さん (下)

「戦争はしない」イクサ場の記憶から

3月下旬、神戸市内で開かれた大城弘明さん「沖縄写真展」。壕に残る遺骨やその収集、一家全滅の家跡、生き延びた家族…。「イクサ場の記憶」を大城さんに話してもらった。(取材/竹田雅博)



大城弘明さん

目鼻腕に機銃弾

母方の祖母ウシは当時46歳。家族7人が自宅の庭の避難壕に隠れていたとき、銃弾に撃たれた。飛行機からの機銃掃射だったらしい。弾は祖母の左目と鼻を削ぎ、右腕を貫通し、傍にいた三女スミの胸で止まった。

壕で殺された幼児

500メートルほどの所に日本軍の病院壕があり、伊江島出身の衛生兵が来て二人の止血など応急手



大きな眼帯を着けたウシさん(1972年)

当をしてくれた。祖母は歩けないので戸板に乗せられ、喜屋武岬に移動した。喜屋武岬で二手に分かれたので、違う収容所に運ばれた。スミの胸は化膿して腫座ったまま移動していた。お父さんが召集され中国に数年。ようやく帰ってきたとき、兵隊服だったため娘さんは怖がり、いづもお母さんの後ろに隠れていたそうだ。

「デテコイ」

糸満の米須にはガマがいくつもあり、集落ごと

ら、きれいな空気を吸ってから死のうと、外へ出て助かった家族がいた。いっしょにいると家族が全滅するからと、ばらばらに避難して助かった人たちもいる。あちこちの収用所には、家族が会えたのは、翌年の3月ごろ。やっと三和村に戻る事ができた。道端や屋敷跡に白い遺骨が散在しており、遺骨の収集も始まった。戦後、その人たちが米須の慰霊碑をつくった。怖いものがある」と反対し、抗議の声を上げた。「日本復帰」は米軍基地が縮小されるどころか、「日本軍の再来」と恐れる自衛隊がやってきた。市町村では自衛隊員の住民登録をしない、県は募集業務をしないとか。いろいろなきが4、5年続いた。いまなら差別と言われなくなるけど、歓迎されなかった。いま自衛隊は増強され、安本法制や基地周辺の土地規制など次々につくられた。



喜屋武岬から荒崎へ、蝶が舞う道(1977年)

いた。亡くなる述が滅り「集団強制死」政権をつくること、い前、入院(ガマなどでの集団自死)、ちばん。(おわり)

戦争は二度としない

教科書から戦争の記 戦争をしない、そういう述が滅り「集団強制死」政権をつくること、い前、入院(ガマなどでの集団自死)、ちばん。(おわり)

戦争の無法 9条を未来に

「アジアから問われる日本の戦争」展

今年で4回目となった「アジアから問われる日本の戦争」展(大阪市内、4月30〜5月1日 写真左)。語り合う会の講演だった。井一郎(現大阪市長)が、戦争を遂行するため、国は、そのじゃまになるPTSDの日本兵はいはいけないことには。当時も「ピースおおさか」展示が今も、そうである。国と軍ら加害部分を撤去した。コは一貫して社会に隠し続けた。国府台陸軍病院の院長だった諏訪敬三郎さん、長だった諏訪敬三郎さん、は、「カルテを50年間、隠すよう」緘口令を敷かれたという。国民は戦争の実態を知らされない上に、PTSDは恥ずべきこととして隠した。黒井さんの父、慶一郎さんもその一人。中国の前線で酷い任務に着かされ、ひたすら神国日本に価値観に従い子どもまで殺し、自分を壊した。15年戦争の期間中、運良く帰還できた延べ約

三里塚の産直野菜 大根葉は栄養の宝庫 大根やカブの葉は栄養の宝庫。「苦味やごわごわとした食感」が苦手という方には、フリカゲがおすめ。ごま油、しらすカツオ節、みそ、豆板醤ニンニク、お好みでさつと炒めて常備菜にしてはどうでしょう。(淡)



三里塚「産直野菜」は有機無農薬。毎週・隔週、「お試しセット」あり。【お問い合わせ】TEL/0799-72-5242 E-mail/kanjitsu_mail@yahoo.co.jp

未来に引き継ぎたい」と訴えた。(投稿/石川豊子)

